

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
原発事故の環境影響に関する検討小委員会
(第26期・第1回) 議事要旨

1. 日 時：令和6年4月11日（木）13:00～15:00
2. 場 所：遠隔会議（主催会場：国立研究開発法人国立環境研究所）
3. 参加者（五十音順、敬称・所属略）：青井考、五十嵐康人、伊藤好孝、大塚孝治、小野恭子、恩田裕一、木名瀬栄、篠原厚、関村直人、高橋嘉夫、田上恵子(議事要旨担当)、津旨大輔、中野貴志、溝上伸也、箕輪はるか、森口祐一、保田浩志、谷田貝亜紀代、山澤弘実（小委員会委員 19名）
4. 議事概要
 - ・議事に先立ち定足数を満たしていることを確認した。
 - (1) 名称変更も含め小委員会の設置趣旨説明があった（森口前委員長）
 - － 質問はなかった。
 - － 委員の自己紹介があった。
 - (2) 役員を選出した（敬称略）
委員長：関村直人、副委員長：森口祐一、幹事（3名）：伊藤好孝、津旨大輔、田上恵子
 - (3) 議事要旨の提出に関し、委員長一任で認められた
 - (4) 小委員会委員間のメールアドレスの共有が認められた。
 - (5) 25期までの活動報告について（森口副委員長）
 - ・小委員会及びWGの開催状況について報告があった
 - ・主たる活動として、24期報告の英文版の作成、環境放出・拡散解析WGによる研究レビュー、アーカイブズWGによるアンケート実施と結果のとりまとめ、が挙げられた。
 - ・2024年1月に開催された原子力総合シンポジウムにおいて25期の小委員会の活動概要および今後の課題を紹介したとの報告があった。
 - ・小委員会を進めるあたり、親委員会である分科会の設置提案書と委員の紹介があった。
 - － 質問はなかった。
 - (6) 26期の活動計画について（森口副委員長）
 - －ALPS処理水について
 - ・ALPS処理水に関し、放出側は低い基準を設定しており、現行の基準値とは乖離がある状況で、正確な情報発信を学術会議からできると良い。
 - ・大気放出については地球惑星科学委員会社会貢献分科会から「見解」が出されたが、原発事故を通して海洋モデルも高度化し役立ったと認識。
 - ・処理水や海洋モデルに関連し、26期の早い段階で「報告」として出してはいかがか？
 - ・報告書の読者について気にしておいた方が良い。
 - ・リスクの伝え方について、わずかに上がることを認めたとして許容できるのかどうかについてきちんと伝える覚悟が足りていない。議論を深めるべき。
 - －炉内事象について
 - ・廃炉の状況が進んでくると、色々な答え合わせができる段階に来ている。

- ・炉内事象は膨大な情報量がある。テーマを区切って紹介し、議論をしていく方向でいかがか。

-福島森林

- ・帰還困難区域の森林については関係各省庁がそれぞれやっているが、科学的データの側面からも情報共有しながら、全体的に進めていければ良い。

-分科会と小委員会の関係

- ・分科会、小委員会、または合同で開催されることで効果的になるものもある。また、委員会を超えた議論もありうる。どのようにマネジメントすると効果的なのか、課題がある。

- ・本日議論し尽くせなかったところを深めるため、あまり間をおかないうちに次回小委員会を開催する方向としたい。

(7) 25期までのアーカイブに関する検討の記録等としてのとりまとめについて報告があった(伊藤委員)

- ・データのアーカイブズについては筑波大学、名古屋大学で一区切りという印象

- ・今後の課題は、情報の継承、試料や環境の保全。生物試料の先には人に関する試料／資料が入ってくることが考えられるので、医学系の委員会とも情報交換が必要になる。

- ・25期にまとめたものに、26期の活動において新たな補足をつけて「記録」として活動を早く出すこと。

(8) その他

特になし

配布資料：

資料1 原発事故の環境影響に関する検討小委員会設置提案書

資料2 原発事故の環境影響に関する検討小委員会委員名簿

資料3 小委員会第25期第8回議事要旨

資料4 第25期原子力安全に関する分科会への小委員会からの活動報告

資料5 第25期アーカイブWG報告(第25期第8回小委員会資料2再配布)

資料6 原子力総合シンポジウム2023における小委員会活動の報告

参考資料1 原子力安全に関する分科会設置提案書

参考資料2 原子力安全に関する分科会委員名簿